

2017 FIBA新ルールの対応及び変更点 (0826)

JBA 審判部

1. 変更点の対応

FIBA新ルールが2017年8月15日付でFIBA から送付されてきた。そこで変更点の対応を以下とする。

- ①トップリーグ (B1 2 3, WJBL) においては、2017-18シーズンから導入する。
- ②変更点は現段階 (0826) の解釈で実施する。ただし、解釈部分に関して修正及び変更が必要な場合は、リーグと協議の上、修正及び変更実施時期をチームへ通知する。(映像等も資料として提出)
- ③JBAが主催する第93回天皇杯第84回皇后杯においては、第3次ラウンドから変更点を適用し実施する。
- ④それ以外の大会においては、2018年4月1日からの適用とする。

2. 変更点

①トラベリング (Art.25.2)

動きながら片足が床についてボールを受け取るときやドリブルをしていたプレイヤーがドリブルを終えるとき、床についている足の「次の足 (他方の足) をピヴオット・フット」とする。

【解釈】走りながらボールを保持したとき、軸足は最初に床に着いた足ではなく、次の足 (他方の足) となるため、最初に床に着いた足の「遅れ」によるトラベリングは成立しない。

※トラベリングの解釈については、FIBAへ問い合わせを行っているが現段階で明確な回答がない。そこで、ヨーロッパ遠征で日本代表女子が多くのトラベリングを吹かれている事実を考え、現段階ではトラベリングが成立しない幅を広げず対応すべきと考える。今後、FIBAからの情報収集、ユーロリーグ等映像解析を行い、早い段階でトラベリングについて明確な解釈をしていきたいと考えている。

②アンスポーツマンライク・ファウル(Art.37.1.1)

- 1) エクセシブ (ハード・コンタクト) ……ボールにプレイしている場合でも過剰な接触とみなされた場合

【解釈】意識的な強いコンタクトに対してはUF として判定する。

- 2) 規則の意図するバスケットボールのプレイの中で防御側のプレイヤーが直接ボールにプレイしておらず、速攻を止めることだけを目的に必要なないファウルをしたり、または攻撃側のプレイが進行することを妨害することだけを目的に必要なないファウルをおこしたとみなされた場合 (このルールはオフense側のプレイヤーがショットの動作に入るまで適用される)

【解釈】クリーンバスケットの観点からタクティカルファウル (①速攻を止めるためのファウル、②ピリオドの終わりのショットをする前のファウル) は、不要なファウルとしてUF とする。

③ゲーム・ディスクオリフィケーション(Art36.3.3, Art37.2.3)

プレイヤーはテクニカル1つ、アンスポーツマンライク1つ、合計2つが記録された場合に失格・退場となる。尚、コーチ (プレイヤー兼) に関しても同様とする

④第23条 アウト・オブ・バウンズ (4月発信 競技規則 解説追加部分について)

「プレイヤーが3秒ルールを回避するためにエンド・ライン側のアウト・オブ・バウンズに出ることはヴァイオレーションである」

【解釈】3秒制限区域内にいるプレイヤーA1が、3秒を回避するためにエンド・ライン側のアウト・オブ・バウンズに出たのち、そのアウトオブバウンズのエリアから改めて3秒制限区域に入ったときA1のヴァイオレーションが成立する。ただし、これは3秒ヴァイオレーションではなく、アウトオブバウンズのヴァイオレーションとする。